

令和5年度

「運営に関する計画 (最終評価)」

大阪市立瓜破西中学校

令和6年3月



大阪市立瓜破西中学校 教育全体構想図

校訓 希望あれ、こころあれ、学びあれ

〈希望あれ〉望ましい未来を願う。自主、創造の精神を養い、明るい人になろう。
 〈こころあれ〉まごころを通じる。自他を尊重し、正しい判断力と責任を持って行動できる人になろう。
 〈学びあれ〉学びの中につとめはげむ姿をうつす。真理を求め、努力を怠らず、すすんで他と協力できる人になろう。

学校教育目標

一人ひとりの生徒に、生きて働く学力を身につけさせ、これからの国際社会を生き抜くための力を育成することをめざし、その根本たる人権尊重の精神を具現化できる豊かな人間性をはぐむことを目標とする。

めざす学校像

明日も行きたくなる学校
 トイレのきれいな学校
 来訪者に感動を与える学校

めざす生徒像

自他の尊重を行動で示せる生徒
 自らの力で考え発信できる生徒
 心も体もはつらつとした生徒

めざす教職員像

生徒の思いや行動を
 受け止められる教職員
 自ら学ぶ姿勢の教職員
 助け合い支えあう教職員

令和5年度重点教育目標

不登校生徒と保健室来室生徒(心因性)の減少をめざす。

〔指標:1日の欠席者を各学年10名未満、保健室来室者数(心因性)を昨年度の同月より減少させる〕

- カウンセリングマインドに基づいた生徒対応を実践する。
- 生徒自らが発案計画実践できる取り組みを計画する。
- 校内の美化活動に重点的に取り組む。
- 「今週のできごと」を継続実施する。
- 可能な限り、給食を実施する。

生徒がより良い学校生活が送れるよう、教師力向上(授業力・指導力)をめざす。

- 学期に1回ずつ、それぞれ1つの学年集団が研究授業を実践する【年間3回】。
- ICT活用技術の研修を各長期休業中におこなう。
- 校長による“勉強会”を年7回実施する。

生徒一人ひとりの学力の向上をめざした、授業実践に取り組む。

- 朝学習時において、個々に応じた、デジタルドリルナビマ・教科書音読・NIEドリル・コグトレを実施する。
- 国語・数学・英語における習熟度別分割授業を充実させ、特に基礎コースのレベルアップを図る。
- 全教科を通じて授業の振り返りを授業ごと(単元ごともしくは1教材ごと)に150字程度の作文を書かせることによって、書く力を伸ばす。
- 読解力・表現力のレベルアップをめざした授業実践(音読、ペア&グループ学習、プレゼン、探求型授業)をおこなう。
 [上記の効果検証のために、RSTを第1学年の初期と第2学年の後期に実施し、その成績を比較検討する]

学校総体としての校内の取り組みや行事を実施し、体系化・系統化した組織を構築する。

- 3年間を見通した、人権、障害者問題、在日外国人、キャリア教育、の年間計画を作成し、令和8年度まで一貫した計画で実施する。
- 3年間を見通した、学年行事の年間計画を作成し、令和8年度まで一貫した計画で実施する。
- 運動会・文化祭において年間計画を作成し、令和8年度まで一貫したプログラムで実施する。

上記計画を実施する中で、大きな課題が見られた場合は変更もあり得る。

幼小中連携及び地域連携を充実させることによって、地域全体で生徒を育てる感覚を醸成する。

- 瓜破北幼稚園児を運動会等に招く。
- 校区内小学校への出前授業と同小学校を招いての部活動体験を実施する。
- 地域人材を最大限活用し、高齢者介護学習・地域防災学習などのゲストティーチャーを積極的にお招きする。
 また、校内植栽ボランティアなどを積極的に受け入れる。

大阪市立瓜破西中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

※はじめに※

令和5年度に『大阪市立瓜破西中学校教育全体構想図(瓜破西中学校グラウンドデザイン)』【前頁を参照】を策定した。そのため、令和4年度から7年度までの中期目標を変更し、概ね令和5年度から8年度までの目標として改めて設定する。

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

落ち着いた状態で日々の教育活動は展開できている。教職員も授業研究に余念がなく、行事や特別活動の取り組みに対しても熱心である。また、家庭訪問等の保護者対応にも努めている。ただし、次の点において課題がある。

- ア) 一部に、日常的な校則違反及び日常生活が乱れている生徒がみられる。保護者の協力も得にくく、指導の効果もなく改善の見通しが立たない。
- イ) 不登校生徒が多く、対応に苦慮している。令和4年度の年間30日以上欠席者は、1年11名、2年17名、3年11名の合計39名で全体の10%を超える。中には、100%欠席で、生存確認もままならない生徒が3名いる。
- ウ) 各種テストにおける得点力に多くの課題がみられる。令和4年度の全国学力学習状況調査の平均正答率では、全国56.6%、大阪府55.0%に対して本校は50.1%であった。チャレンジテスト(チャレンジテスト plus を含む)の平均点では以下のような結果となった。

	1 年		2 年		3 年	
	府(市)	本校	府	本校	府	本校
国語	58.6	55.8	59.6	53.4	53.8	48.5
社会	51.8	51.5	44.4	37.7	55.4	52.6
数学	55.0	55.3	49.0	43.9	56.0	55.0
理科	55.0	46.0	53.1	50.6	56.7	54.0
英語	59.1	56.4	56.1	45.1	54.2	57.5

- エ) 校内体制として、生徒が主体的に取り組める活動になっているとは言い難く、“指示を受けてから動く”といった生徒が多くを占める。
- オ) 地域連携及び小中連携は不十分であると言わざるを得ず、コロナ禍の影響も考慮できなくはないが、地域との連携は希薄になっている。小中連携において、小学校児童と直接連携できたのは「部活動見学」と「授業体験」のみであった。
- カ) PTAとの連携も活発とまでは言い難い。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・不登校生徒の減少をめざし、令和8年度末には6%未満までとする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学力向上をめざし、令和8年度には【全国学力学習状況調査】における各教科の得点を全国と、【チャレンジテスト】では各教科の得点を大阪府と、【チャレンジテスト plus】では各教科の得点を大阪市と、同じレベルにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を令和8年度には年間80%以上にする。
- ・「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、令和8年度1月度には45%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・中学校)

- ・年度末の校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度よりも減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校)

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を20%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小・中学校)

- ・各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を年間70%以上おこなう。
- ・「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、1月度には35%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度から瓜破西中学校グランドデザインを基に教育活動を行った。初年度の取り組みとしては、一定の成果があったと考えている。来年度も引き続き瓜破西中学校グランドデザインを基に教育活動を実施していく。

全国学力・学習状況調査について(3年生)

(国語)

全国平均・大阪府平均と比較し、すべての領域において平均正答率は下回った。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかった。日頃から自分の考えを言語化する力を身に付けるために、自分の考えや意見を書きまとめる作業を実施している成果があったものとする。

(数学)

全国平均・大阪府平均と比較し、すべての領域において平均正答率は下回った。しかし、「数と式」の領域では全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかった。日頃から計算問題を中心に朝の学習タイムや授業時において計算問題を重点的に実施した成果があったものとする。

(英語)

全国平均・大阪府平均と比較し、すべての領域において平均正答率は下回った。しかし、「聞くこと」の領域では全国平均・大阪府平均とほとんど差がなかった。授業時に正確な発音をし、正確に聞くことを心がけ指導をしており、その成果があったものとする。

中学生チャレンジテスト(3年生)

大阪市・大阪府平均と比較し、国語・社会・理科・英語は下回った。しかし、昨年度と比べ、国語・社会・理科・英語は少しずつ成果が上がっており、対府比を同一母集団において昨年度より全教科上回ることができた。数学については大阪府・大阪市平均より上回った。1学年からコツコツと努力する大切さを指導している成果が上がっているとする。

中学生チャレンジテスト(2年生)

大阪市・大阪府平均と比較し、国語・社会・理科・英語は下回った。昨年度と比べ同程度である。数学については大阪府・大阪市平均より上回った。無回答率が大阪市・大阪府平均と比較し低いことから、1年次から諦めずにコツコツと努力することの大切さを指導してきた成果が出ているとする。

中学生チャレンジテスト・plus(1年生)

大阪市・大阪府平均と比較し、国語・数学・理科・英語は下回った。しかし、国語・数学・英語については大阪府平均とほとんど差がなかった。社会は大阪市平均より上回った。また、無回答率が大阪市・大阪府平均と比較し、すべての教科で高かった。今後、諦めずにコツコツと努力することの大切さを指導していきたいとする。

昨年度から自学自習の場所として、定期テスト1週間まえに、図書室・多目的室を活用し、自習室として開放した。また、今年度から図書室を学びの場として常時、開放した。来年度も引き続き学びの場として図書室・多目的室を開放していきたいと考える。

不登校生徒については、昨年度と同程度であった。それぞれのケースにより対応は異なるが担任との人間関係が途切れないように保護者・本人と丁寧な対応を心がけ実施していきたい。また、外部機関(こども相談センター・サテライト平野・子育て支援室等)と連携し、来年度も問題解決を図っていききたいと考える。

地域連携及び小中連携については、敬老会・子ども祭り・ボッチャ大会・防災訓練・サマーフェスティバル・餅つき・授業体験・部活動体験・読み聞かせ・幼稚園実習・運動会への参加(北幼稚園児)等を実施することができた。来年度も地域連携及び小中連携をさらに活発にしていきたいと考える。

昨年度から教員の負担軽減(生徒への個別の対応が増えている)の観点からスクールサポータースタッフ・学力向上支援サポーター・生活指導支援員を採用し配置した。来年度も引き続きスクールサポータースタッフ・学力向上支援サポーター・生活指導支援員及び部活動指導員を配置していきたいと考える。

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和5年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】全市共通目標(小・中学校) ・年度末の校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 ・年度末校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度よりも減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 カウンセリングマインドに基づいた生徒対応を実践する。	B
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 生徒自らが発案計画実践できる取り組みを計画する。	B
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 「今週のできごと」を継続実施する。	B
<< 共通指標 >> 1日の欠席者を各学年10名未満にする。 保健室来室者数(心因性)を昨年度の同月より減少させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は84% ・不登校生徒の在籍比率は昨年度と同程度。 ・前年度不登校生徒の改善の割合は昨年度と同程度。

次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none">・いじめについては、毎週末のアンケートに加え、毎日、こころの天気(一人一台端末)を活用し実施した。こころの天気について毎日の確認作業を忘れてず行う。また、担任が一人で抱え込まず組織で対応していきたい。・不登校生徒については昨年度と同程度であった。一律に対応をするのではなく、その生徒に応じた対応を、今後も心がけて対応していきたい。・今後も全教職員が、一人ひとりの生徒の気持ちに寄り添う対応を心がけ実施していきたい。

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和5年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <u>全市共通目標(小・中学校)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査における CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を20%以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4誰一人取り残さない学力の向上】 国語・数学・英語における習熟度別分割授業を充実させ、特に基礎コースのレベルアップを図る。	B
取組内容②【4誰一人取り残さない学力の向上】 全教科を通じて授業の振り返りを授業ごと(単元ごともしくは1教材ごと)に150字程度の作文を書かせることによって、書く力を伸ばす。	B
取組内容③【4誰一人取り残さない学力の向上】 読解力・表現力の向上をめざした授業実践(音読, ペア&グループ学習, プレゼン, 探求型学習)をおこなう。	B
指標: RST(リーディングスキルテスト)を第1学年の初期と第2学年の後期に実施し、その成績を向上させる。	
<p>《共通指標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の対府比を同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査における CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を20%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は31%。 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の対府比を、同一母集団において経年比較し、3学年国語・数学及び2学年数学は3ポイント以上向上することができた。2学年国語は3ポイント向上することができなかった。 ・大阪市英語力調査における CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は34.1%。 ・「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は53%。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の授業形態ではなく、話し合う活動をさらに増やし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を、推進し、実施していきたい。 ・中学生チャレンジテスト及び plus 1学年において、全教科無回答率が大阪市・大阪府平均と比較し高かったことから、日頃から諦めずにコツコツ努力することの大切さを指導していきたい。 ・書く力を伸ばすために、必ず全教科を通じて授業の振り返りを授業ごと(单元ごともしくは1教材ごと)に150字程度の作文を書かせ、指導していきたい。 ・国語・数学・英語における習熟度別分割授業をさらに充実させ、特に基礎コースのレバルアップを図っていきたい。

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和5年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小・中学校) ・各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を年間 70%以上おこなう。 ・「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、1月度には35%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT活用技術の研修会を各長期休業中におこなう。 <hr/> 指標: 各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を年間 70%以上おこなう。	B
取組内容②【7人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 退勤時刻17:30までの教職員用「ゆとりの日」を月に 3 回確保する。 <hr/> 指標: 「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、1月度には35%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ・ICT機器を活用した授業は年間60%程度。 ・「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、1月度には35%以上にする事ができた。
次年度への改善点
・働き方改革の推進について、「ゆとりの日」(17:30までの退勤)を月4回設定していきたい。 ・ICTをさらに活用し、従来型の授業形態ではなく、生徒が自ら考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を、推進し、実施していきたい。